

## 1. 福岡市における光化学オキシダントに関する揮発性有機化合物の実態調査

環境科学課 肥後 隼人・宮地 夏海  
木下 誠・山崎 誠

### 第36回九州衛生環境技術協議会

福岡市における光化学オキシダント（Ox）に関する揮発性有機化合物（VOC）の実態調査を2008年4月～6月および2009年4月～6月に行った。その結果、VOC濃度は市街地の調査地点ではバックグラウンド地点の小呂に比べ約2～3倍高濃度であった。VOC組成比ではすべての調査地点でアルカン類が50%以上を占めており、その中でもエタン、プロパン、n-ブタン、ペンタン等の低級炭化水素が大きい割合を占めていた。祖原局を除くすべての調査地点で芳香族炭化水素類の割合が2番目に大きく、その中ではトルエンが最も大きい割合を占めていた。Ox生成能について成分別寄与率では芳香族炭化水素類が24～46%と最も高く、トルエンや1,2,4-トリメチルベンゼン、3-エチルトルエン、キシレン等の寄与が大きかった。また、市街地ではOx生成能が約100ppbと高いため、晴天・高温・弱風の条件下ではOxの地域生成が活発に起こることが予想された。